

令和元年度学長戦略経費(重点分野研究プロジェクト)進捗状況報告

(令和2年3月)

報告者氏名・所属	中島 寿宏 (札幌校・准教授)	
研究プロジェクトの名称	大学・教職大学院・学校の連携による対話的学習に向けたカンファレンスシステムの構築	
プロジェクト担当者 (氏名・所属・職) ※代表者に●を付すこと	神林勲 (札幌校・教授) 石澤伸弘 (札幌校・教授) 森田憲輝 (岩見沢校・教授) 姫野完治 (教職大学院・准教授) 山口修司 (附属札幌中学校・教諭) 河本岳哉 (附属札幌小学校・教諭) 飯島孝行 (札幌市立向陵中学校・教諭)	
研究プロジェクトの概要等 (期間全体)		
<p>本研究課題では、<u>小・中学校における各教科授業内の学習者の対話的活動に影響する教師の指導技術向上を目指し、大学・大学院・教育現場が連携したカンファレンスシステムの構築とその具体的効果としての子どもの学力・体力への影響を検証すること</u>を目的とする。本研究課題は第3期中期目標のひとつである、「北海道の喫緊の教育課題である『子どもたちの学力・体力』の問題には、具体的な成果を検証する形で取り組んでいく」に対応する。まずは、(1)大学・教職大学院・教育現場が協働して、授業での子どもたちの対話的活動を可視化データによって分析・解析・協議を行い、各専門家の視点から各教科に応じた授業改善方法について検討する。次に、(2)継続的な授業カンファレンスを実施し、授業改善に向けた具体的な手法について授業実践から再検討を行う。さらに、(3)各教科授業における児童生徒の対話的活動状況と子どもたちの学力・体力の変容について縦断的検証を行うことで授業改善による学習成果を評価する。特に、本研究課題では、最新のセンシングツールによってデータ化された児童生徒の対話的学習状況について、<u>大学・大学院・附属学校・教育現場が連携・協力して授業改善に取り組む</u>ことで、各教科授業での効果的なアクティブ・ラーニング実現を目指すことが特徴である。</p>		
進捗度	1	←番号を記入 1. 順調に進んでいる 2. ほぼ順調に進んでいる 3. やや遅れ気味 4. 遅れ気味
(進捗度が3若しくは4の場合、問題点等の理由を記入願います。)		
予定していた内容を、全て順調に実施しているから。		

研究実績の概要（当該年度）

1. 複数の指標を用いた授業調査・分析の実施

- ・本学が実施する教員養成に関する科目内での受講学生による模擬授業において、言語的コミュニケーションの調査・分析を実施した。調査の目的は教師役の学生の指導内容や児童生徒役への関わり方が、対話的学習活動にどのように効果を及ぼすかを検証し、授業改善につなげることである。
- ・学生たちは可視化データをフィードバックされることで、具体性のある振り返りを実施することが可能となり、結果としてその後の模擬授業を劇的に改善させることができた。
- ・本調査の結果については学内紀要等での公表を検討中である。

2. 附属小学校・中学校での調査実施

- ・附属札幌小学校において、低学年および高学年を対象とした言語的コミュニケーションの継続的な調査を実施している（2018年6月～現在）。調査結果については各担任および校長・副校長にフィードバックを行っている。調査では教師の関わりや児童の学習への意識と言語的コミュニケーションの状態との関連性について検証を行っている。来年度以降も継続して調査・検証を実施して縦断的な効果検証を行う予定である。
- ・附属札幌中学校の英語および保健体育授業を対象として言語的コミュニケーションの調査を実施した（2019年6月～2020年1月）。調査結果については各担当教諭にフィードバックを行い、その後の授業改善の参考資料とした。

3. 附属小学校「附属で学ぶ会」での研究成果の公表

- ・2020年1月27日に実施された「附属で学ぶ会（体育）」において、今年度に2年生を対象として実施した、授業内容・教師の関わりが児童の言語的コミュニケーションや学習の振り返りに及ぼす影響について、成果の公表を行った。
- ・本会には札幌市内小学校・中学校教諭、札幌市教育委員会指導主事、および附属小学校教諭が多く参加しており、成果に関して大変興味を持っていただくことができた。来年度に実施予定である本学附属小学校の研究大会でも今後の研究成果について報告することを期待されている。

4. 学会大会での研究成果の公表

- ・日本スポーツ教育学会第39回大会@早稲田大学（2019年9月22-23日）において、研究成果の一部について口頭発表を行った。学会大会では教科教育を専門とする研究者たちとの活発な意見交流を行い、研究計画や今後の分析方法について有益な助言を受けることができた。
- ・北海道体育学会第59回大会@北海道教育大学釧路校（2019年12月14-15日）において、研究成果の一部について口頭発表およびポスター発表を行った。北海道教育大学の重点分野研究での成果として参加者へのインパクトを与える報告となった。
- ・2020年度大阪大学COI成果報告会（2020年3月19日）において、本プロジェクトの成果のまとめを報告する予定となっている。

5. 文部科学省での成果説明

- ・2019年11月1日に文部科学省の初等中等教育企画課において、ICT教育担当者に対して研究プロジェクトの概要と成果について説明を行なった。本プロジェクトにおける教員養成大学としての大学・教職大学院・地区小中学校との連携した研究推進について大変興味をもっていただいた。

6. 教職大学院との連携

- ・教職大学院の姫野完治先生と連携した研究推進のための検討会議を実施した。北海道大学の伊藤崇先生や北海道教育大学旭川校の小泉匡弘先生とも協働して研究を進めることを検討中である。
- ・本研究プロジェクトに関わって、教職大学院の川俣智路ゼミとの交流セミナーを実施した（2020年3月4日）。現職教員を含む教職大学院生たちに対して研究手法や研究プロトコル、成果の説明などを実施した。今後の連携したセミナーを実施していくことで共通理解を図った。

7. 北海道教育委員会・札幌市教育委員会との連携

・北海道教育委員会が主導する「子どもの体力向上ボトムアップ事業」における「授業改善プロジェクト」において、北海道内の小学校・中学校・高等学校を対象として本研究プロジェクトでの授業実践・授業カンファレンスおよびその効果検証を継続的に実施した（2019年9月～12月）。また、その成果については北海道教育委員会主催の各種会議やセミナー等で報告を行なった（2020年1～2月）。

・札幌市教育委員会から委託されている研究において、公立小学校を対象とした本研究プロジェクトでの授業改善に向けた中長期的な授業実践・授業カンファレンスを実施した（2020年1月～2月）。本プロジェクトでは授業改善や教諭たちの指導力向上に繋がる成果が多く得られた。新型コロナウイルス拡大の影響で、予定していた成果公表のための機会が延期となってしまったが、来年度以降に改めて実施する予定となっている。

8. 札幌市学校体育研究連盟での成果報告と今後の連携

・札幌市学校体育研究連盟中学校ブロック研究会の学習会（2020年2月17日）において本研究プロジェクトの成果報告を実施した。参加者は札幌市内中学校の校長・教頭・保健体育教諭であり、研究内容や成果について大変興味を持っていただくことができた。

・来年度からも本プロジェクトと連盟が連携して、授業改善に向けた助言やカンファレンスを実施していくことが確認された。

今後の研究プロジェクトの推進計画

研究計画の2年目となる2020年度は、初年度に得られた結果を元に授業内容や授業者の児童生徒へのかかわり方の精査を行い、各教科の授業実施状況に合わせた具体的な指標を用いて授業改善の成果を検証する。また、授業カンファレンスについては2年目も継続的に実施し、学力・体力に関わる学習効果の検証も合わせて実施する。すでに研究対象となる学校からは調査実施の内諾を得ている。3年目となる2021年度では、本プロジェクトのよって構築したカンファレンスシステムを小学校・中学校に実装することでシステムモデルとして運用し、教師の指導技術向上および子どもの学習効果への影響の検証を実施する。また、教育系の学会や教育現場において積極的に成果の公表を行っていく。

教育現場や地域で活用可能な成果等

- ・本プロジェクトにおける言語的コミュニケーションの調査の結果、授業者は学級内の児童生徒の対話的学習活動における関わりについて把握できている部分とできていない部分があることが検証された。特に、発話が多くない児童生徒が実際は「聞き役」としてコミュニケーションに積極的に参加している状態は、授業者の観察からは把握しづらいことが明らかとなった。また、これらの「聞き役」の児童生徒の参加がグループワークの成立やグループ内の課題意識の共有に大きく貢献していることが検証された。可視化データ分析と授業カンファレンスの実施によって、これら児童生徒の対話的学習活動の促進のための方策が検討しやすくなり、実際に授業改善に繋がった。
- ・熟練教師と非熟練教師（実習生、初任者など）の児童生徒への指導技術および関わり方の違いについて、授業調査から得られた可視化データによっていくつかの要素（発問・繰り返しなどの使用、関わりを持つ際の対象人数、振り返り場面での注意の向け方など）が明らかとなった。
- ・上記の得られた結果について、学生たちの模擬授業や教育現場での実践に取り入れたところ、実際に多くの場面で授業改善（対話的学習の促進、技能向上、有能感の向上など）に結びついた。また、授業者へのインタビューでは、授業者としての「手応え」も得られている。

研究成果の公表実績（当該年度）

【著書】

【学術論文】（投稿中も含む）

- ・中島寿宏・河本岳哉・高橋正年，中学校体育における教師への言語的コミュニケーションデータのフィードバックによる授業改善の試みーダンス授業における生徒の対話的学習活動に着目してー，北海道体育学研究，p125-132，2019・第54巻，査読有り
- ・中島寿宏・河本岳哉・梅村拓末・高橋正年，小学校体育における授業者への可視化データのフィードバックによる授業改善：言語的コミュニケーション量と発話内容の分析から，北海道体育学研究，2020・第55巻，査読あり（投稿済み・査読審査中）

【学会発表、シンポジウム、セミナー、演奏会、展覧会、競技会、普及啓発イベント等】

- ・（セミナー）可視化データによる授業改善の実践報告，2020年3月4日，北海道教育大学教職大学院川俣ゼミ臨時セミナー，6名。
- ・（学会発表）中学校体育授業におけるフィードバックの方法の違いが生徒の思考力に及ぼす影響ー柔道の授業分析からー，2019年12月14日，北海道体育学会第59回大会，北海道教育大学釧路校，約80名。（学会発表）
- ・（学会発表）中学校体育授業における立位・座位による対話的活動場面の差異ー話し合いの質的・量的な検討からー，2019年12月14日，北海道体育学会第59回大会，北海道教育大学釧路校，約80名。
- ・（学会発表）体育学習における対話的活動と体育勤勉性の関係について，2019年12月15日，北海道体育学会第59回大会，北海道教育大学釧路校，約80名。
- ・（シンポジウム）子どもの運動習慣や体力は 学級内での対話的活動と関連するのか?：ビジネス顕微鏡によるコミュニケーションの可視化データによる分析から，2019年9月19日，第74回日本体力医学会大会シンポジウム，約300名。
- ・（学会発表）小学校低学年における見方・考え方の変容に着目した「跳の運動遊び」の実践，2019年9月22日，日本スポーツ教育学会第39回大会，約200名。
- ・（学会発表）体育授業における姿勢が 対話的活動と身体活動量に与える影響：座位・立位での言語的コミュニケーションおよび歩数の比較から，2019年9月22日，日本スポーツ教育学会第39回大会，約200名。
- ・（学会発表）中学校体育授業における言語的コミュニケーションと知識習得との関係：短距離走の単元の分析から，2019年9月22日，日本スポーツ教育学会第39回大会，約200名。
- ・（学会発表）ユースケース7：コミュニケーションの質の向上と可視化：教育現場におけるBMSの実装，2019年8月26日，令和元年大阪大学COI サイトビジット，約300名。
- ・（講演）新学習指導要領の全面実施に向けて：これからの保健体育の視点，2020年2月17日，令和元年度札幌市学校体育研究連盟中学校ブロック研究会，約100名。
- ・（講演）北海道における体育授業改善にむけた実践例と検証，2020年1月17日，令和元年度北海道教育委員会子どもの体力向上ボトムアップ事業第2回実践研究検討会議，約120名。
- ・（講演）小学校体育における教師の関わり方と対話的学習活動への影響，2019年12月19日，第2回小学校体育授業在り方検討会議（道央ブロック），約50名。
- ・（講演）小学校体育における教師の関わり方と対話的学習活動への影響，2019年11月21日，第2回小学校体育授業在り方検討会議（道東ブロック），約50名。
- ・（講演）小学校体育における教師の関わり方と対話的学習活動への影響，2019年11月21日，第2回小学校体育授業在り方検討会議（道北ブロック），約50名。
- ・（講演）小学校体育における教師の関わり方と対話的学習活動への影響，2019年11月7日，第2回小学校体育授業在り方検討会議（道南ブロック），約50名。
- ・（講演）可視化データの分析・授業カンファレンス実施による授業改善の取組，2020年1月27日，北海道教育大学附属札幌小学校「附属で学ぶ会（体育）」検討会議，約50名。
- ・（講演）対話的学習活動を促進させる教師の関わり，2019年7月18日，令和元年度北海道教育委員会体力向上ボトムアップ事業会議，約200名。

<p>・（講演）ティーム・ティーチングによる体育授業と生徒の対話的学習，2019年11月7日，2019年度札幌市東区中学校保健体育科学習セミナー，11月7日，約30名．</p>	
<p>【テキスト、報告書、研修資料等】</p>	
添付資料	
ダウンロード可能なドキュメント	
関連URL	
問い合わせ先	<p>氏 名：中島 寿宏 電 話：011-778-0967 E-mail：nakajima.toshihiro@s.hokkyodai.ac.jp</p>